

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300017		
法人名	社会福祉法人清水福祉会		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地	佐賀県小城市小城町821番地4		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年4月9日	外部評価確定日	令和3年5月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域で入居者様方をご家族様や職員がともに支え合い、入居者様一人ひとりの自立支援を行うことで有意義でメリハリのある暮らしの継続(趣味や習慣等)ができるように努めています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>入居前のご本人の居室内と似た環境作りに努められ、混乱や不安の軽減に努められている。その中で、リンゴ狩りや買い物支援などの外出活動(現在はコロナ禍で出来ない)や、野菜を育てたり調理を手伝ってもらうなどのアクティビティケアを通して、入居者の方に楽しんでもらえるような活動を心がけられている。 また、「ご家族の負担軽減も考えたい」との事で、比較的グループホームの中では安価となっている。地域交流活動として、美容ボランティアの来訪による散髪もあるとの事であった。日用品に関してもホーム内で準備されるものが多い。 現在、コロナ禍で直接の面会は中止となっているが、玄関越しや、ZOOMを利用したオンライン面会を実施されている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースに理念を掲示し常に職員が目にし意識できる環境整備をおこなっています。また適宜職員に確認し、全体会議等の場で唱和を行っている。	玄関先と共有スペースに掲示され、全体会議で唱和されており、ケアに活かされている。「やさしさと思いやりをもって」という理念は法人理念とは別にグループホーム独自の理念となっており、入職や異動時に説明されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の感染症対策(以下「感染症対策」とする)において、地域の祭りや清掃活動等の中止もあり、昨年までの取り組みができなかった。	コロナ禍で地域との交流はここ1年は出来なかったが、それまでは、県内一斉清掃に入居者と参加されたり、お茶や折り紙など広域ボランティアの方の往来もあった。広域ボランティアの方を対象に認知症の研修会を開催されるなど、地域の中での役割も果たされている。落ち着いたら、地域との交流活動も復活したいとの事である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、感染症対策のため外部(広域ボランティア団体や地場の美容師等)からの来所もなく、様々な館外行事を行うことができなかった。そのため、事業所内の取り組み内容を広報誌として発信した。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度においては、感染症対策のため事業所内にて運営推進会議の場をもつことはできなかったが、定期的に資料提供という形で情報発信することに留まった。	運営推進会議は、行政職員の他に、人権擁護委員の方や区長さん、ご家族、入居者が参加され、ボランティアの仲介をして頂いたり、保育園との関わり作りをされたりして、地域との交流に繋がっている。昨年度はコロナの影響で書面会議となり、意見が出づらい状況であった。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症対策の観点から常時連携を行うことができず、新型コロナウイルスワクチン接種の説明会に参加するに留まった。	感染対策や災害マニュアルについての相談・確認はされたとの事。 コロナの流行前は、市の観光協会に相談してイベントや展覧会の話聞き、入居者の活動のきっかけとなったことがある。展覧会では、入居者の作品展示に繋がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新型コロナ禍のため、職員の外部研修参加を実施することができず、職員の入れ替わり等もあったことで身体拘束等適正化委員の再選出や事業所内での勉強会の実施方法も検討し、5名以下の少人数で複数回に分けて実施し、議事録の供覧という形をとった。現在、入居者様より玄関付近での外出希望等があった際には、職員が1名付き添い、事業所南側の庭の散策という形で対応している。 また、今後もOJTを通じて、活かした学習の機会を確保していきたいと思っているが、コーチング・ティーチングを実施するのみではなく、どこまで理解できているかの確認や評価票を検討している。	現在、認知症の影響で危険行為がある方がおり、ご家族同意のもと、玄関と浴室などの危険個所の施錠を行っている。 研修会は、昨年度はコロナの影響で密集を避ける為、数回に分けて行ったとの事。研修会等により、拘束に関しての職員の理解はあると思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	OJTを実施することで、職員が常に様々な虐待防止に関し意識して業務に取り組んでもらっている。OJTの中で「入居者様の気持ちになってみると如何でしょう」と伝え、職員一人ひとりが自覚してくれているように感じるが、その都度記録に残していなかったため、定期的な勉強会の機会を確保することが必要だと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後もOJTを通じて、活きた学習の機会を確保していきたいと思っているが、コーチング・ティーチングを実施するのみではなく、どこまで理解できているかの確認や評価票を検討・作成中である。また、市の保健福祉ガイドブックをもとに社会福祉協議会が実施している日常生活自立支援事業についての説明等を管理者より計画作成担当者を中心に職員へ対して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	金銭の変更等が行われる前にご家族様へ文章を送付したり、適宜説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	令和2年4月より広報誌「たんぼぼだより」を再開している。それにより、入居者様方の日々の暮らしを写真等にて伝え、感染症対策の観点よりZOOMを用いた面会の場を確保し、そのなかでご家族様方の意向を伺い、ケアプランや事業所取り組み等に反映させている。	電話や面会時に意見を言われる事が多い。意見箱も設置されており、昨年は1通入っていたとの事。「認知症の勉強をしてほしい」との要望があり、勉強会を行い、質の向上に繋がった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等の職員が集まる場に限らず、日々の業務のなかで出来るだけ職員の意向を聞くよう努めている。感染症対策のため、外部研修への参加を制限させてもらっているが、その分ZOOMを用いた研修への参加促しを適宜行っている。その他、日々の業務に当たる中で入居者様方の生活がより良いものになる物品等があればその都度ボトムアップで意見・提案を受けている。	昨年度は職員に業務改善に関するアンケートを取り、要望等意見を聞き、ベッドマットを褥瘡が出来にくいものに変えたり、業務改善に繋がった。 集計結果を話し合うことが、職員の意見交換のきっかけにもなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試験的に実施していたメンター制度も功を奏して、新任職員のモチベーションを保つことができ、日々の業務に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の人事考課制度を取り入れ、年2回の目標設定及び自己評価、他者評価の機会を確保している。その中で、中堅職員は新任職員に対するOJTの実施の有無やティーチングを行ってみたいの振り返りを職員間で検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策のため、今年度は他事業所との交流が出来なかったが、電話やSNSを用いて様々な認知症ケアの取り組み等の情報交換を行い、職員へ周知している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅での暮らしの継続を主のケアとして、ご本人が愛用していた家具や仏壇等を持参していただき、馴染みの環境を整え、緊張感なく新しい生活を送っていただけるよう努めている。また、生活歴の聞き取り等を通じて、日々の認知症ケアやアクティビティケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時や入居が決定するまでの間に、ご家族様に対し、認知症という病気についての説明やご家族様の本人への対応等の相談に乗ることもあった。その他、現在取り組んでいる事業所の試みや特色を伝えるなどご家族の気持ちに寄り添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様のキーパーソンが遠方に在住されている場合は、家族対応での定期受診が困難なため、協力医療機関につなぐなどの対応を行い、ご家族様同意のもと居宅療養管理指導などの利用方法を説明している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で一人ひとりの出来ることを観察し、職員間で「共有」し、2クールに段階を分け24hシートの聞き取り内容をもとに入居者様の要望やこれからの暮らしに繋がる興味・関心チェック表を職員と一緒にしてもらい、行動や判断が困難な場合のみお手伝い(支援)させてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策のため、今年度は実施できなかったが外出や外泊等の際に、ご本人の事業所での暮らしをご家族様へ伝え、自宅など外出先での対応に困ったときは、直ぐに連絡をもらうことで職員をご自宅に派遣または何時でも受入れが出来る体制をとるなど、ご家族様とご本人が出来るだけ一緒に時間を過ごせる仕組みをつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度においては、地域の広域ボランティア団体との交流もできず、入居前に交流あった方との面会も制限していたため、事業所の電話を使って馴染みの声を聴いたりZOOMを使用し面会を実施するに留まった。	コロナの流行前までは、法事など個別に外出支援をすることもあった。ご家族の協力でききつけの美容室に行くことも可能。 現在は、外出が出来ない状況で、直接の面会は中止だが、ZOOMを利用したのオンライン面会は可能であり、ご家族の承諾があれば知人も利用可能との事。また、携帯電話を持ってこられて使用されている方も2名入居されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相互扶助が出来ており、家事活動や余暇活動時に互いを思いやる言動が見られている。また、以前よりも年齢や認知症の症状の進行による家事作業の進捗状況に違いがあったとしても、さりげなく職員が間に入り場の雰囲気を和ませている場面を見かけることが多くなった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した入居者様のご家族が現運営推進委員の方と馴染みということもあり、ときに地域の行事について伺ったりご家族様方の心境のフォローをするように心がけている。それに対し、自宅で収穫できたいけ等を事業所玄関前に置いておいてくださることがある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今年度に入り、医療職にも作成に参加してもらい、24h聞き取りシートを改良したことで入居以前の暮らしや思いだけではなく、多角的にご本人様を捉えられるようになった。それにより、職員が今までよりも深く一人ひとりの状況把握ができるようになった。また、認知症の症状の進行により「ご本人の思い」を引き出すことが困難な場合は24hシートの聞き取り内容をご家族様と共有し、入居に至る前の暮らしぶりをもとに様々な助言をもらい、入居者本位のケアの提供に努めている。	24時間聞き取りシートは、担当職員が時間を作って作成され、詳細な状態把握に繋がっている。前回と比較できるようになっており、ご家族にも説明されている。 何か思いがあれば、出来る限り反映されており、起きる時間や入浴回数など個別ケアに繋がっている。 思いを言えない方でも、ご家族の意見を確認したり、その時々と言動・表情を見たりして確認されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント票を作成する際に、生活歴やご本人の興味・関心あったことを重点に聞き取り、且つ、担当のケアマネジャーがっていた際には情報提供してもらい、ご本人が認知症という病気を発症してから当事業所に入居するまでのご家族様とのかかわりを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に支援を行った際にどのような言動が返ってきて、どういった対応をすることができたのかを記録し、職員間や特別診療指示書による訪問リハビリに来た担当者情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりの状態変化に加え、前回の外部評価において助言いただいたように、ケアプランの期間見直しを行っていた。 また、行政機関からの指導・助言を受けケアプラン及び評価票、アセスメント表の見直しを行った。今後は、ご本人のこれまでの暮らしや好まれていたこと、興味・関心チェック等をもとにこれまで以上に「ご本人の思い」を反映させるよう努めたいと思う。	前回の外部評価を受け、目標期間を短く設定したが、その後保険者より目標は長期と短期に分けなくていいことと、長い期間でよいとの事で、再度原本見直しをされた。 職員だけでなく、主治医の意見も反映しながらプラン作成されている。現在コロナの影響で職員だけの担当者会議となっているが、以前はご家族も参加されていた。現在は電話や面会時に意見を聞いている。 24時間聞き取りシートは、現状や思いの把握に繋がり、プラン作成やモニタリングにも活かされる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの反応を記録に残すことは、仕事の証拠となること、業務改善に向けての大切な資料となることを適宜職員に周知するとともに、入居者様のケアプランを供覧テーブルに設置することでいつでも職員が目を通すことができるようにした。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は感染症対策のため実施が出来なかったが、ご本人の「親類の看取りに立ち会わせたい」という要望があった際には職員が個別ケアの一環としてご自宅へ送迎し、訪問看護ステーション担当者やメディカルソーシャルワーカー等へ引き継ぐ等シームレスな連携を行うことができた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は感染症対策のため実施できなかったが、例年市内の広域ボランティア団体の方々や運営推進会議に参加されている構成員の皆さまより地域の資源などについて伺ったり、認知症サポーター養成講座を受講された方がおられる近隣の店舗等にて職員付添のもと、食材の買い出しに参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、新規入居の際に協力医療機関が事業所の主治医を担当しているため、ご本人様やご家族様へかかりつけ医を変更することの良い点や不都合となる点などご理解いただくまで説明を行っている。そのため、年2回の健康診断や緊急時の対応等はシームレスな対応が出来ている。また、主治医による計画的訪問診療も定期的あっており、直接主治医より相談・助言・指示を受け、日々のケアに反映できている。	ご家族協力のもと、入居前のかかりつけ医への受診も可能。その際は、近況を報告されている。希望者は協力医療機関の往診も出来るが、他科受診の場合はご家族・職員協力での受診である。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、協力医療機関の訪問看護STとの事業所間契約締結しており、毎週訪問看護師の来所時に1週間の状態報告を行っている。その際に、ケアの中での疑問や質問を行い、多職種共同で一人ひとりの入居者様方の状態を把握できている。また、緊急時等は協力医療機関への連絡調整や主治医への報告迄行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院が決定した際に、協力医療機関の主治医や看護師より入院先での状況報告を受けている。また、入院予定期間やカンファレンス等実施日についても地域連携室の担当者より適宜伺い、情報共有が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に[重度化・終末期ケア対応の指針]についての説明を行っている。その際、事業所での重度化・終末期ケアの対応を行っていくためには、ご家族様との信頼・協力関係は欠かせないことを伝え、ご家族様と事業所、協力医療機関が一緒になってご本人様が満足するような看取りの支援を行う旨を説明している。しかしながら現在においても、事業所での看取りを希望されるご家族様は少なく看取りを支援したことはない。	医療連携体制加算を算定されており、訪問看護が24時間対応され、看取りが出来る体制である。看取り時期にご家族は宿泊できる。3年ほど前に看取りまで行った入居者がいたが、それからは看取りはしていない。法人関連施設や医療機関もある為、ご本人やご家族の意向に応じた対応をグループホームだけでなく他事業所も踏まえて検討・支援できる体制であることも看取りがなかった理由の一つだと思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接事業所にAEDを設置しており、使用方法などの説明を当事業所職員も受けている。また、適宜OJTを実施する中で新任職員へおこなったり、今年度は感染症対策のため、外部研修への参加はなかったが、例年研修に行くことで知識の再確認が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上隣接事業所と合同で夜間想定避難誘導訓練を実施している。感染症対策のため、今年度は入居者様は外部の職員や利用者とのかわりはないよう配慮していたが、法人内の職員間での避難誘導に関する協議は定期的実施している。	隣接事業所と合同で避難マニュアルを整備されており、訓練も合同で行っている。以前、夜間想定ではなく、実際に夜間に訓練したこともあり、その中で運営推進会議を行ったり、消防団の介入もあった。火災だけでなく、水害や防犯の訓練もされ、警察の方の指導を受けたこともあった。災害時の為に3日分の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のOJTにおいても、入居者の皆様は【人生の先輩】であることを適宜職員へ伝え、ケアにあたる際には必ず目線を合わせて行うよう心掛けている。また、基本的に自らで選択できる機会を確保できるよう努めている。若しくは、出来ないところのみを職員がお手伝いさせていただき仕組みをつくっている。	接遇に関しては5つのルールを作成されており、職員休憩室に掲示されている。不適切な言動等あれば、管理者からの指導があったり、スタッフ間で注意することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記にも記載したが、ご本人様方が気兼ねなく自己選択・決定できるよう日々の生活の中でご本人の思いを発する意識付けのため、希望や要望を後回しにせず、直ぐ取り掛かるようにしている。また、その時の入居者様の反応やその後の様子を記録に残し、職員間で周知するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活にメリハリがつくよう基本的な日課(午前中の余暇活動への参加等)や時間の区切りはあるが、入居者様方の生活リズムを重視している。そのため、食事の時間や入浴時間がそれぞれズレることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	感染症対策のため、今年度は実施できていないがご家族様と外出され入居以前からの馴染みの理容店にて散髪後に外食や買い物を楽しんでおられる。また、地場の美容師の訪問を利用し事業所内においてカット・カラー・シャンプーをされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策のため、入居者様と職員が一緒に食材の買い出しに行くことはなかったが、畑の野菜の収穫や法蓮草などを切ってくださいと食事準備を職員と一緒にやっている。毎食後の皿拭きに関しては男性入居者の役割となっており、職員から参加促しを行う前に自ら台所に来て下さることもあった。月に一度は行事食としておやつ作りに入居者様全員が参加されている。	朝食・昼食は、職員が一から調理し、夕食は外注を取り入れられている。リクエストを聞くこともある。職員作成分は随時管理栄養士にチェックしてもらっている。畑に野菜を育てられており、入居者とともに水やり等のお世話をされ、調理時は、野菜の根切りや米研ぎ等出来る方は手伝われている。おやつ作りでは、ジャムやスイートポテト、金柑の甘露煮などを作成されていた。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	4か月ごとに法人内の管理栄養士に献立の栄養チェックをもらったり、事業所の調理師資格を有している職員から食材の切り方等の指導をOJTを通じて行う場を不定期でもっている。また、その日の入居者様の状態に応じて食事形態の配慮や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、居宅療養管理指導(歯科)の契約締結している方は適宜協力歯科医師へ報告・指示をもらっている。その上で、有する潜在能力に応じ言葉かけ・一部介助・全介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各居室にトイレが設置されていること、昼夜問わずオムツを使用しないことから、リハビリパンツを使用しているトイレ誘導・付添介助を行っている。その際に提携している介護用品業者に相談・助言をもらい、今まで使用していた尿取りパッドメーカーの変更を行ったことで、従来品よりギャザーが高く尿戻りもないため、尿路感染症に罹患するリスクも低下し、事業所内にて多動的な運動をしても漏れることもなく、入居者様方が歩行訓練や運動に参加中にトイレに行くなどが減った。また、不思議と尿失禁も減った。	できるだけオムツをしないような支援に努められている。排泄意がない方も、タイミングを見て、ご本人の状態に合わせて誘導を行っている。 入居前オムツだった方が、入居後トイレに行かれるようになった方もいる。 また、オムツもモニタリングし、より良い物の使用に繋がられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事業所の勉強会やOJTの中で【介護力向上講習会】の資料をもとに水の重要性を全職員に周知し、健康チェック票にも水分量を記入する仕組みをつくるなど職員の意識変化を狙ったところ、1日に適量水分補給が出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週3回の入浴支援を行っている。浴室には同地区・同年代の仲間と浴槽で語り合ったり、夫婦で一緒に入浴したりされている。冬至のゆず湯や不定期で温泉の素を入れ、お風呂を楽しんでもらっている。汚染時など必要であれば、入浴予定日以外でも浴室準備を行っている。	埋め込み式の浴槽であり、洗身スペースは二人まで可能となっている。基本的にはマンツーマン対応だが、ご夫婦等希望で二人で入浴される事もある。 週3回の入浴が基本だが、要望に合わせて臨機応変な対応にも努められている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員ではないが、入居者様方の生活リズム(寝たい、起きたい等)を制限せず、一人ひとりのペースで過ごされている。その際にも24hシートの聞き取りが有機的に機能した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	計画的訪問診療時に変更された内服薬や外用薬の用法用量等は居宅療養管理指導(薬剤)の担当薬剤師より、詳しく説明を受けその日の介護日報等に記録し、職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様方やご家族様の要望をもとに、家事活動への参加促している。その際にQOLの維持するためご本人の意思を尊重し、イキイキと作業ができる環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度は感染症対策のため、入居者様方の外出希望があった場合も代替え策を提示したり、事業所内にいることでのフラストレーションが溜まらないよう、第三者と会わないように近隣の神社までの散歩や事業所南側庭に出ての茶話会や畑の収穫を行ってもらった。	現在コロナ禍で外出支援が出来ない状況だが、ストレスが溜まらないよう、マンツーマン対応での近隣散歩は時々行われている。以前は、個別活動を多くすることを心がけられており、外出支援も多かった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年までは、館外行事の一環で道の駅や物産館などにて500円を手渡し職員1名ずつ付添う仕組みで欲しいものを買っていた。新型コロナウイルス流行禍のため、今年度はバスハイク等の館外行事ができなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様によっては、認知症という病気の進行により、[手紙を書く]ことが困難になってきているがご家族様との協議の結果、定期的に(季節ごとに)葉書きを送ってもらい、ご本人様と[一緒に読む]を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンやリビングが事業所の中央に位置し、それを囲むように居室が配置されているため、入居者様方は自室よりリビングの様子を確認することができる。また、リビングには入居者様と職員が共同で作成した布製カレンダーを飾っており、毎月共同で付け替えることで季節感が味わえるようにしている。感染症対策のため、時間毎での換気や加湿、毎食前の手指消毒などを楽しく行ってもらっている。	リビングにはソファと大きなテレビが設置されている。壁には入居者の方と職員共同で作成したカレンダーが飾られており、温かみがある。 「車いすをなるべく使わないような生活を」との思いで、リビングでは皆さん通常の椅子に座られていた。 清掃等は職員が行っており、廊下は物がなく導線は安全な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブルに座りTV視聴をしたり、同地区・年代の仲間との団らんの際にローソファに座ったり、ご本人の気持ちで自室で過ごしTV視聴をするなど一人ひとりのリズムで生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りご自宅での暮らしに近い【しつらえ】ができるよう、入居前にご本人様の部屋の確認を行い生活動線の把握やご本人様やご家族様同意のもと写真を取り、住まいを変えた際にご本人が戸惑われることがないよう配慮し、認知症の進行状況に合わせ物品や居室扉に印をつける等の対応や掲示物も本氏の高さに合わせている。	入居前の居室と似た環境作りに力を入れられ、ダンスや仏壇、写真、博多人形などを持ってこられている方もいる。また、和室と洋室があり、できるだけ希望に沿い、双方の入居者・ご家族・主治医の承諾の元、居室移動もすることがある。 シーツ類はリースであり、週1回交換を行っている。居室の清掃は入居者と職員でされている。 安全の為、人感センサーを設置されたり、ベッドの配置を考慮されている方もいる。	

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない